

澎湖島から再発見された *Lanelater pescadorensis* (Miwa) というコメツキムシについて

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

Notes on *Lanelater pescadorensis* (Miwa)(Coleoptera, Elateridae) rediscovered from Penghu Islands, Taiwan

Wataru SUZUKI

Summary. *Lanelater pescadorensis* (Miwa, 1934) was described based on unrecorded number of specimens collected from Hôkotô (Penghu), islands off the western coast of Taiwan. However, no additional specimens have been known since the original description. Recently, the author had examined a single male specimen of this species collected from the same islands of the original description. In this paper, the male of this species is redescribed and illustrated.

Lanelater pescadorensis (Miwa, 1934) は、1932 年 5 月に Hôkotô [澎湖島] で T. Chin 氏により採集された標本に基づき三輪勇四郎博士により命名記載されたコメツキムシである。記載時の所属は、サビキコリ属 *Agrypnus* であったが、後に Hayek(1973) により *Lanelater* 属に移された。

原記載に用いられた個体数は不明であるが、台湾省農業試験所には原記載と同じデータの標本 (lectotype) が 1 個体保管されていることが明らかにされている (Suzuki, 1999)。

本種は体長が 25 mm を超えるため、コメツキムシとしては大型の部類に入るが、原記載の標本以外にこれまでに採集された記録はなく、その正体についても明らかにされていない。Miwa(1934) の論文には、本種の全形図が紹介されているが、本属のものとしては体形が異常に細長く描かれており、この図から本種をイメージすることはできない。また、台湾省農業試験所に保管されている lectotype は、標本の状態があまり良いものではないため、詳細な形態を明らかにするためにも新たな個体の発見が待たれていた。

筆者は最近、ソーシャルネットワークワーキングサービス Facebook のグループ「臺灣的叩頭蟲」に澎湖島で撮影された *Lanelater* に属するコメツキムシの写真が紹介されているのを見つけ、台湾大学の謝瑞帆博士を通して撮影者である程志中氏が採集した標本を譲り受けることができた。お送りいただいた標本を原記載と lectotype 標本の写真と比較した結果、Miwa (1934) により Hôkotô から記載された *Lanelater pescadorensis* と同種であることが明らかになったので、ここに形態を図示し、再記載したい。

本文を書くに当たり、いろいろとお世話になった台湾大学の謝瑞帆博士、標本の提供と生態写真

の使用をお許しくくださった台北市の程志中氏、比較標本をご提供いただいた自然環境センターの斉藤秀生氏に厚くお礼申し上げます。

Lanelater pescadorensis (Miwa, 1934)

(Figs. 1–2, 4–5, 7–10)

Agrypnus pescadorensis Miwa, 1934: 178, pl.9, fig.9 (Hôkotô [= Pescadores or Penghu Island]).

Lanelater pescadorensis: Hayek, 1973 [catalogue]: 259; Jiang, 1993: 140 [catalogue]; Suzuki, 1999: 50 [lectotype designation].

検視標本. 1♂, 台湾省澎湖縣湖西鄉菓葉村, 2. V. 2014, 程志中採集 (写真および描図; 筆者保管)。

形態. 体長: 29 mm; 幅 8 mm. 体は暗赤褐色で、触角および脚は赤褐色。背面は淡黄色の毛で被われる。頭部. 菱形状に弱く凹み、粗雑に点刻される。点刻間は滑らかで光沢を放つ。触角は短く、前胸背板の基部 1/4 にかろうじて届く程度。触角第 1 節～3 節は光沢があり、4 節以降は密に細かい点刻で被われ、全体に光沢を欠く。第 2 節は垂球状、3 節は 2 節に比べ長く (1.13:1.00)、後方に広がる; 2 節と 3 節の合計は 4 節とほぼ同長 (Fig. 5), 4～10 節は鋸歯状; 11 節は長く、10 節の 1.36 倍で、先端に擬 12 節を伴う。前胸背板 (Fig. 4)。縦長の台形に近く、中央長は中央幅の 1.22 倍に等しい。前縁は波曲し、前角は複眼の半分に達する。両側は後角より前方に直線上に徐々に狭くなるが、基部 2/3 より前方でより強く狭まる。背面は前縁中央部で最も膨隆し、大きく、明瞭な点刻を密布するが、正中線に沿った明瞭な平滑線を伴う。点刻間は平滑で光沢がある。後角はやや外側に突出し、先端



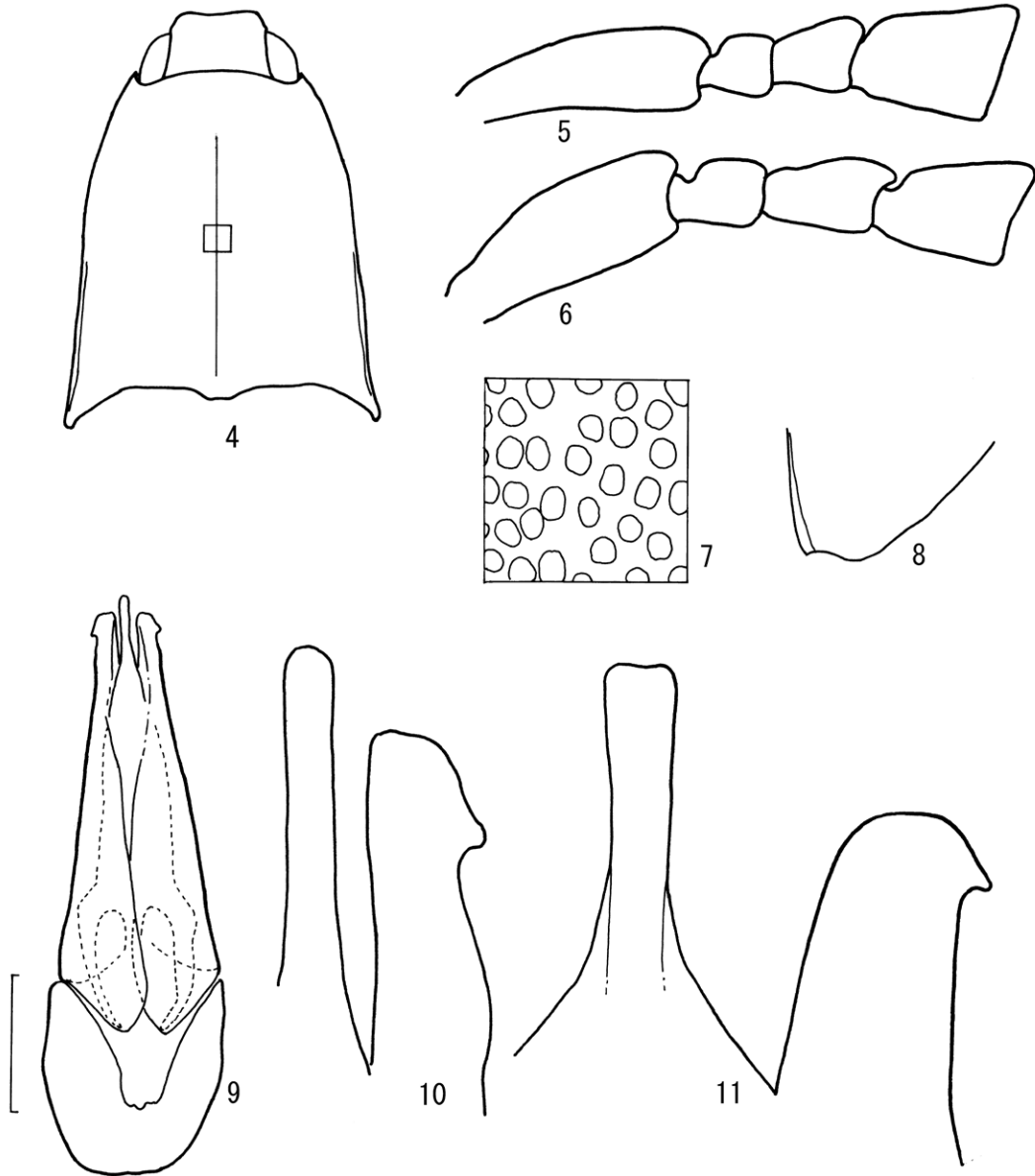
Figs. 1-3. *Lanelater* spp. 1, *L. pescadorensis* (Miwa), ♂, from Penghu Island, Taiwan; 2, ditto (Photograph by Mr. Jyh-Jong Cherng); 3, *L. aequalis* (Candèze), ♂, from Nan Shan Chi, Nantou Hsien, Taiwan.

部は狭く丸くなる。後角外縁部には、前胸背板の半分まで伸びる1本の明瞭な隆起線を備える。小楯板は長四角形に近く、表面には細かい点刻を伴う。点刻間は微細構造を伴うが、光沢はある。上翅。細長い舌状で、基幅の2.5倍。条線は弱く、やや不明瞭。間室は、深く、細かい点刻で被われ、点刻

間はさらに細かい点刻を密布する。翅端は狭い範囲で弱く湾入する (Fig. 8)。前胸腹板や腹部腹面の毛は上翅のそれに比べ短い。

前胸腹板突起は細長く、側面に1本の明瞭な隆起線をそなえる。

脚は長く、前腿節先端は前胸を明らかに超える。



Figs. 4-5, 7-10, *Lanelater pescadorensis* (Miwa), ♂, from Penghu Island, Taiwan; 6 & 11. *L. aequalis* (Candèze), ♂, from Nan Shan Chi, Nantou Hsien, Taiwan. 4, head and pronotum; 5-6, 1st to 4th segments of right antenna; 7, punctures on the central area of pronotum; 8, apex of right elytron; 9, male genitalia, ventral view; 10-11, median lobe and left paramere of male genitalia, ventral view. 8, apex of right elytron. Scale: 6 mm for 4; 0.88 mm for 5-6 & 8; 0.49 mm for 7; 1.15 mm for 9; 0.25 mm for 10 & 11.

雄交尾器 (Fig. 9). 褐色で光沢をもち、全体に強く節片化している。細長く、基片幅の3倍に等しい。基片は大きく、交尾器全体の1/3の長さに等しい。前縁はV字状に切れ込む。側片は先方に狭くなるが、先端部は半台形状。外縁突起は短く、一本の隆起線を伴う。中央片は側片を超え、先方に突出し、先端は丸まる (Fig. 10)。先端部は両側から板状に

平圧され、側片先端部より明らかに狭い。

分布：台湾（澎湖島）。

本種は現在のところ澎湖島からしか知られていないが、本属の種は島嶼に広い分布域をものが多いことを考えると、台湾本土を含めた近隣の地域の調査が望まれる。

備考。台湾に生息する *Lanelater* 属は、本種の他

に *L. aequalis* が知られているが、以下の特徴により、両者を識別することができる。

1. 体は細長く、体幅のほぼ3.6倍；触角第3節は4節に比べ明らかに短い (Fig. 5)；前胸背板は点刻は明瞭で、強い光沢をもつ；前胸背板後方側縁はほぼ直線で後角手前で波曲しない；背面全体は淡黄色の明瞭な毛で被われる；雄交尾器は中央片先端部が丸くなり、切断状とはならない (Fig.10)*L. pescadorensis* (Miwa)
- . 体は幅広く、体幅のほぼ3.4倍；触角第3節と4節はほぼ同長 (Fig. 6)；前胸背板は点刻はやや不明瞭で、点刻間は光沢を欠く；前胸背板後方側縁は後角手前で波曲する；背面全体は

無毛に近い；雄交尾器は中央片先端部が切断状に近い (Fig. 11)*L. aequalis* (Candèze)

引用文献

Hayek, C. M. F. von, 1973. A reclassification of the subfamily Agrypninae (Coleoptera: Elateridae). Bulletin of the British Museum (Natural History) Entomology, Supplement, 20: 1-309.

Jiang, S. -H., 1993. A catalogue of the Chinese Elateridae: 136-162. Beijing Agricultural University Publishing House, Beijing.

Miwa, Y., 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Report of the Department of Agriculture Government Research Institute Formosa, (55): xi+ii+359 pp.

Suzuki, W., 1999. Catalogue of the family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. Miscellaneous Reports of the Hiwa Museum for Natural History, (38): 1-348.

(2016年1月18日受領, 2016年2月26日受理)

【短報】関東および九州におけるネアカヒメフトコムツキダマシの記録

ネアカヒメフトコムツキダマシ *Bioxyllus natsumiae* Watanabe, 2009 は、岡山県新見市千屋 (ちや) で採集された6個体の雄標本に基づいて渡辺昭彦氏により命名されたコムツキダマシであるが、その後の記録はないようである。筆者は、群馬県および鹿児島県で採集された個体を検することができたので、新産地として記録をしておきたい。

小文を書くにあたり、貴重な種を検査する機会を与えてくださった渋川市の堀口徹氏および久留米市の野田亮氏、本種についていろいろとご教示くださった岡山県の渡辺昭彦氏に厚くお礼申し上げます。

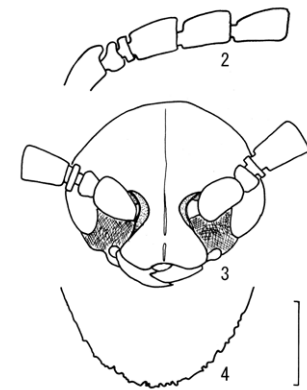
検視標本: 1♂ (Fig. 1), 群馬県多野郡上野村植原, 15-26. VIII. 2012, 堀口徹採集 (FIT); 1♂ (Figs. 2-4), 鹿児島県肝属郡南大隅町杉山ダム, 16-17. VIII. 2014, 野田亮採集 (FIT) (筆者保管)。

分布: 本州 (群馬県, 岡山県), 九州 (鹿児島県)。

日本産のコムツキダマシの中では、とても特徴のある

種である。上翅基部が赤褐色となること、触角2・3 (Fig. 2) はともに短く、その合計は4節より明らかに短いこと、頭部 (Fig. 3) には正中線に沿って明瞭な隆起線を持つこと、そして腹部末端節 (Fig. 4) は、不揃いに細かく鋸歯状を呈することにより、他種との識別は容易である。

今回、群馬県と鹿児島県から本種



Figs. 2-4. *Bioxyllus natsumiae* Watanabe, 2009, ♂. 2, basal six segments of right antenna; 3, head, frontal view; 4, posterior margin of 5th visible abdominal sternite, dorsal view. Scale: 0.49 mm.

が得られたことにより、本種は、関東から九州にかけて広く分布している可能性があることが示唆された。

引用文献

Watanabe, A., 2009. A new false click beetle species (Coleoptera: Eucnemidae: Melasinae) from Okayama Prefecture, west Japan. Entomological Review of Japan, 64(2): 135-138.

(鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科)



Fig. 1. *Bioxyllus natsumiae* Watanabe, 2009, habitus, dorsal view.